

# 利用者の情報行動

佐藤翔（同志社大学）



佐藤 翔  
サトウ ショウ (Sho SATO)

更新日: 06/28

カバー写真の追加

ホーム 研究キーワード 研究分野 経歴 所属学協会 受賞 書籍等出版物 論文 MISC 講演・口頭発表等 担当経験のある科目(授業)  
Works(作品等) 共同研究・競争的資金等の研究課題 学歴 委員歴 産業財産権 学術貢献活動 社会貢献活動 メディア報道 その他

外部システムからのデータ取り込み

エクスポート

インポート

設定

メニュー

マイポータル

研究ブログ

資料公開

共著者の一覧



原田 隆史  
06/28 更新



吉田 光男  
06/29 更新



大向  
06/28 更新



基本情報

編集

所属 [同志社大学](#) 免許資格課程センター 教授学位  
修士 (図書館情報学) (筑波大学)  
博士 (図書館情報学) (筑波大学)研究者番号 [90707168](#)ORCID ID <https://orcid.org/0000-0001-8599-5374>J-GLOBAL ID [201101094760760995](#)researchmap会  
員ID B000000256外部リンク <https://min2-fly.hatenablog.com/>

同志社大学免許資格課程センター教授。図書館司書課程を主として担当。  
ブログ「かたつむりは電子図書館の夢をみるか」 (<https://min2-fly.hatenablog.com/>) 管理人。最近は全然、更新していませんが・・・。

i

並び替え

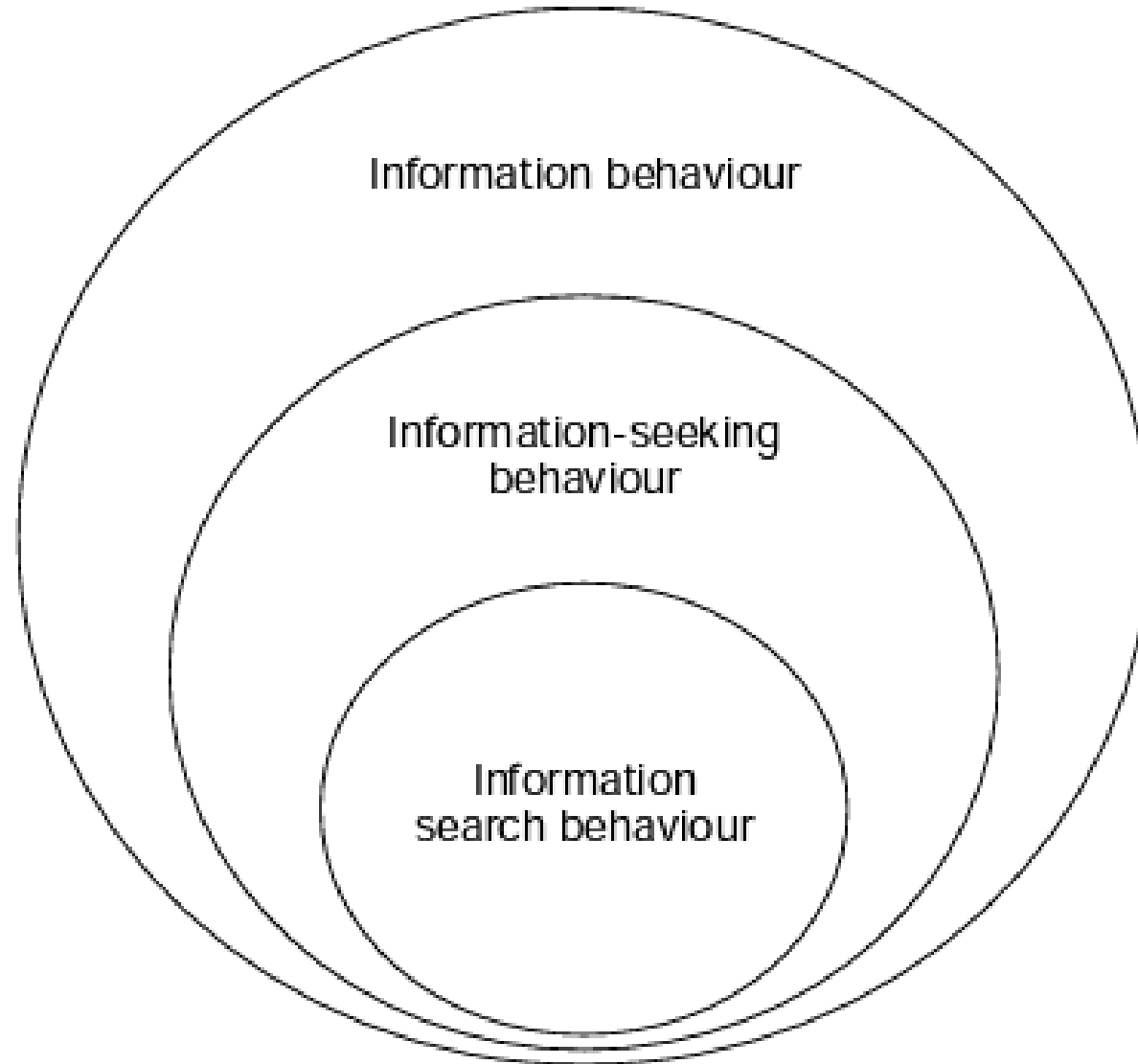
研究キーワード 12

編集

<https://researchmap.jp/min2fly/>

情報行動とは？

# 情報行動とは



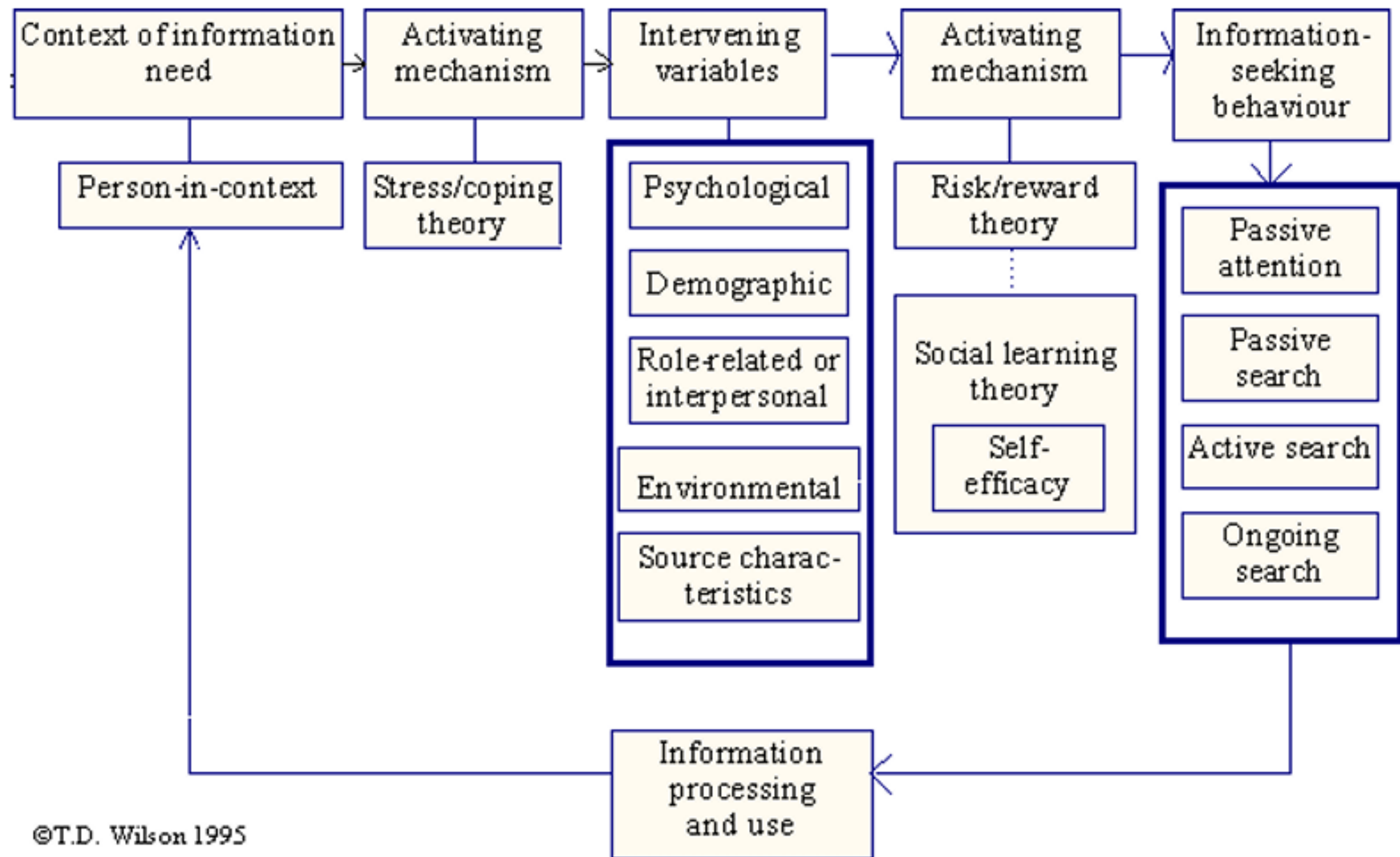
# 情報行動研究のアプローチ

- システム志向

- システム = 情報源がどう使われるか？

- 利用者志向

- 利用者が置かれた文脈・状況の中でどう情報を利用しているのか？





# 利用者志向の情報行動研究

- ツール・サービスのみへの注目では不十分
- 利用者の置かれた文脈・環境
- 利用者にとってのゴール
  - 直近、遠隔、ひいてはその向こう？



# 利用者を知る意義

- ニーズとかけ離れたものの除去
- ユーザビリティの向上
- 利用者満足度向上

×要求をすべて受け入れること

# 大学（図書館）と利用者行動

- ゴールのメタ多重性
- 「利用者（学生・研究者）のゴール」
- 「大学のゴール」
  - 両者は一致しているか？（理想と現実）

# 学生の情報行動

# 学生の「ゴール」

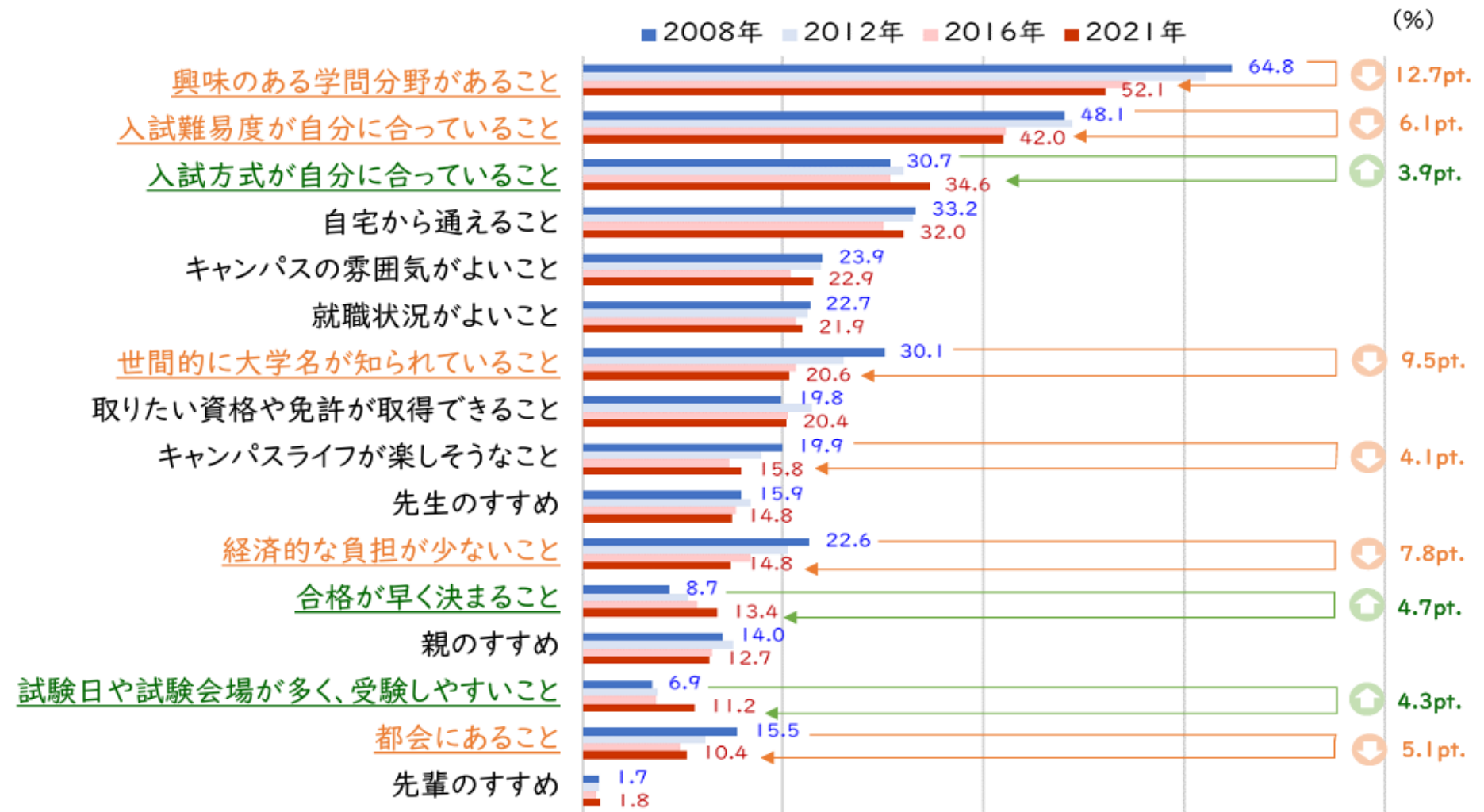
- 遠隔：レポート提出、単位取得、卒論作成・提出
- 超遠隔：学位取得、良好な成績、自身のキャリア、人間的成長……
- 何を求めて大学に来ているのか？

# ◆大学進学理由

【10】

## ● 「興味のある学問分野」「大学名が知られている」が減少

◆受験する大学・学部を決める際に重視した点について、あてはまるものをお選びください。



※4時点で比較できる項目のみを抜粋、2012年と2016年の数値の表記は省略した。

## ◆大学教育観①

【15】

## ●「単位を楽に取れる授業」「学習方法は授業で指導」が増加

◆大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか。

## ①単位取得

【A】あまり興味がなくとも、単位を楽にとれる授業がよい

【B】単位をとるのが難しくても、自分の興味のある授業がよい

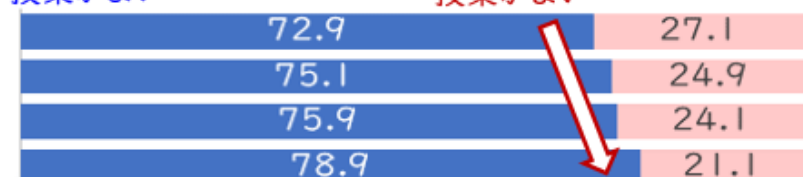


## ②授業難度

(%)

【A】応用・発展的内容は少ないが、基礎・基本が中心の授業がよい

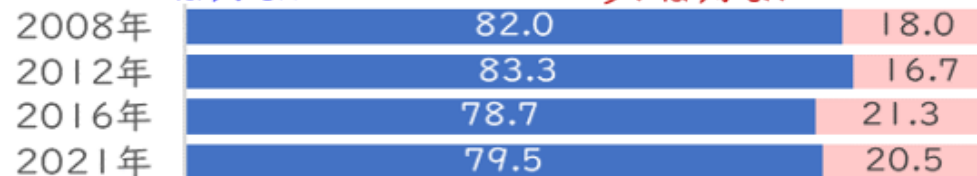
【B】基礎・基本は少ないが、応用・発展的内容が中心の授業がよい



## ③授業形式

【A】教員が知識・技術を教える講義形式の授業が多いほうがよい

【B】学生が自分で調べて発表する演習形式の授業が多いほうがよい



## ④身につけたい知識

【A】大学では幅広い分野の知識や技能を身につけたほうがよい

【B】大学では特定の専門分野の知識や技能を身につけたほうがよい



## ⑤単位の系統

【A】あまり自由に選択履修できなくても、系統立って学べるほうがよい

【B】あまり系統立って学べなくても、自由に選択履修できるほうがよい



## ⑥学習方法

【A】大学での学習の方法は、大学の授業で指導をうけるのがよい

【B】大学での学習の方法は、学生が自分で工夫するのがよい



# ◆大学教育観②

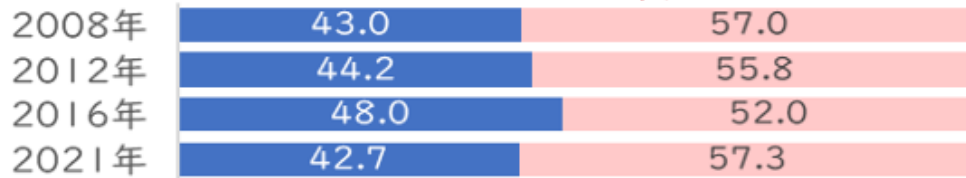
## ● 「学生生活は大学が指導」「知識・技能の獲得は大学の責任」が増加

◆大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか。

### ⑦将来決定

【A】学生は将来やりたいことを決めて、授業をうけるほうがよい

【B】学生は授業を通じて、将来やりたいことをみつけるほうがよい

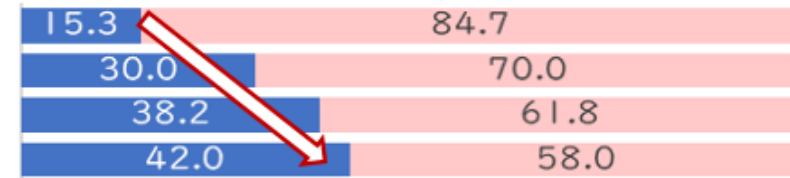


### ⑧学生生活

(%)

【A】学生生活については、大学の教員が指導・支援するほうがよい

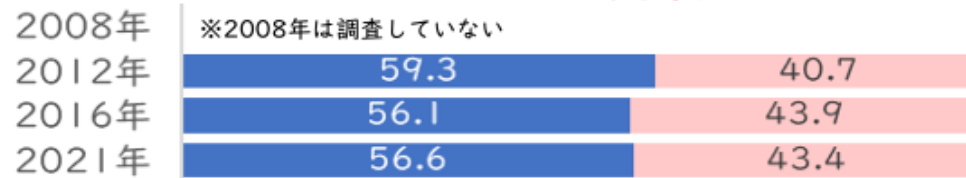
【B】学生生活については、学生の自主性に任せるほうがよい



### ⑨就職活動

【A】就職については、大学の指導・支援にもとづいて活動する方がよい

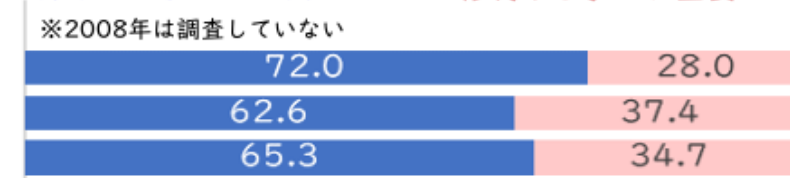
【B】就職については、学生の自主性にもとづいて活動する方がよい



### ⑩重要な学び

【A】大学では、答えのない問題について、自分なりの解を探求する学びが重要だ

【B】大学では、既にある学問の知識について、体系的に修得する学びが重要だ



### ⑪責任

【A】学生が知識や技能を身につけられるかどうかは、大学の教育の責任だ

【B】学生が知識や技能を身につけられるかどうかは、学生自身の責任だ



# 学生の「ゴール」

- 学生は自分ではあまり考えてない?!
  - 「もう生徒じゃない」は通じない
- 社会／大学の側は考えているか？

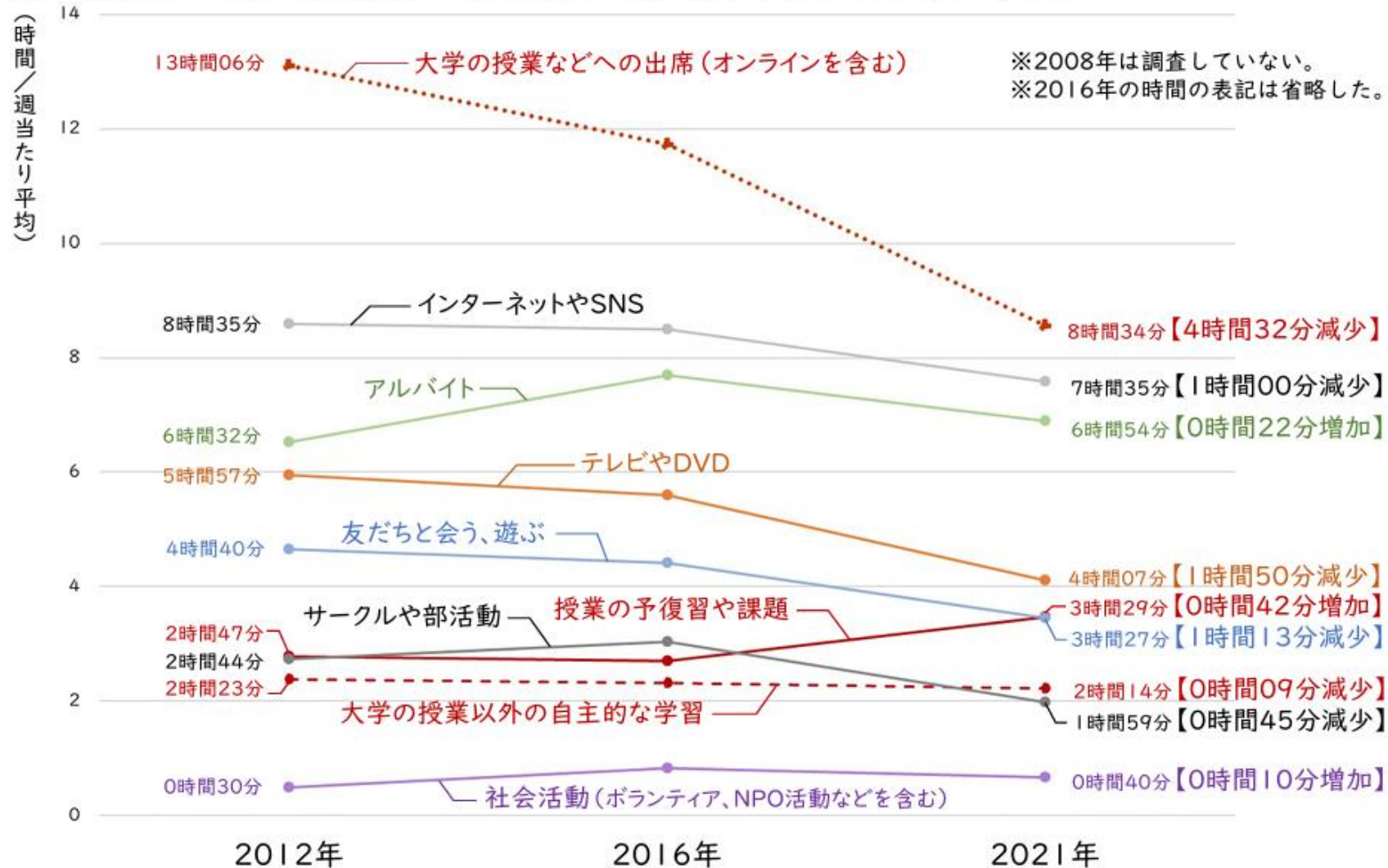


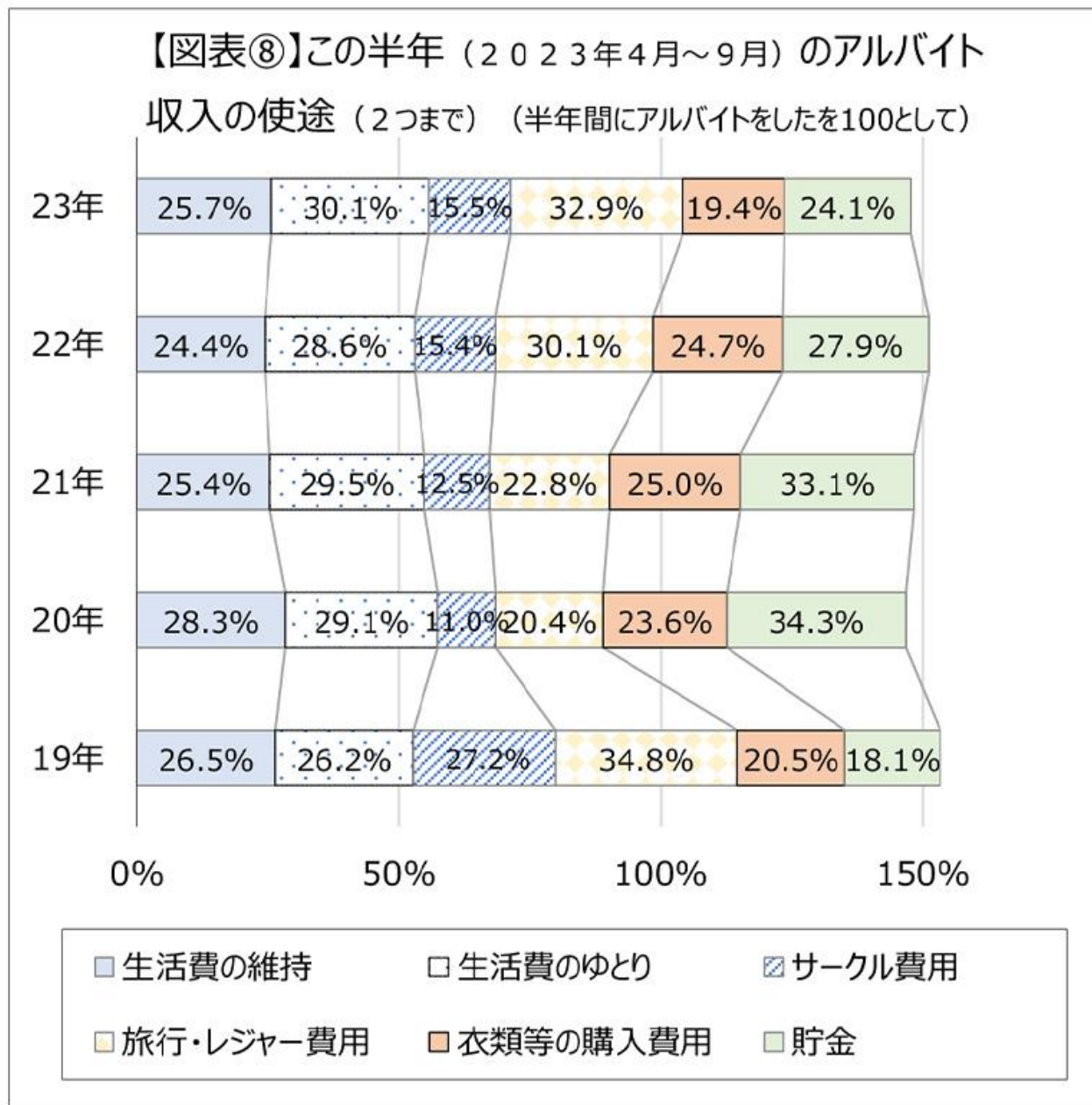
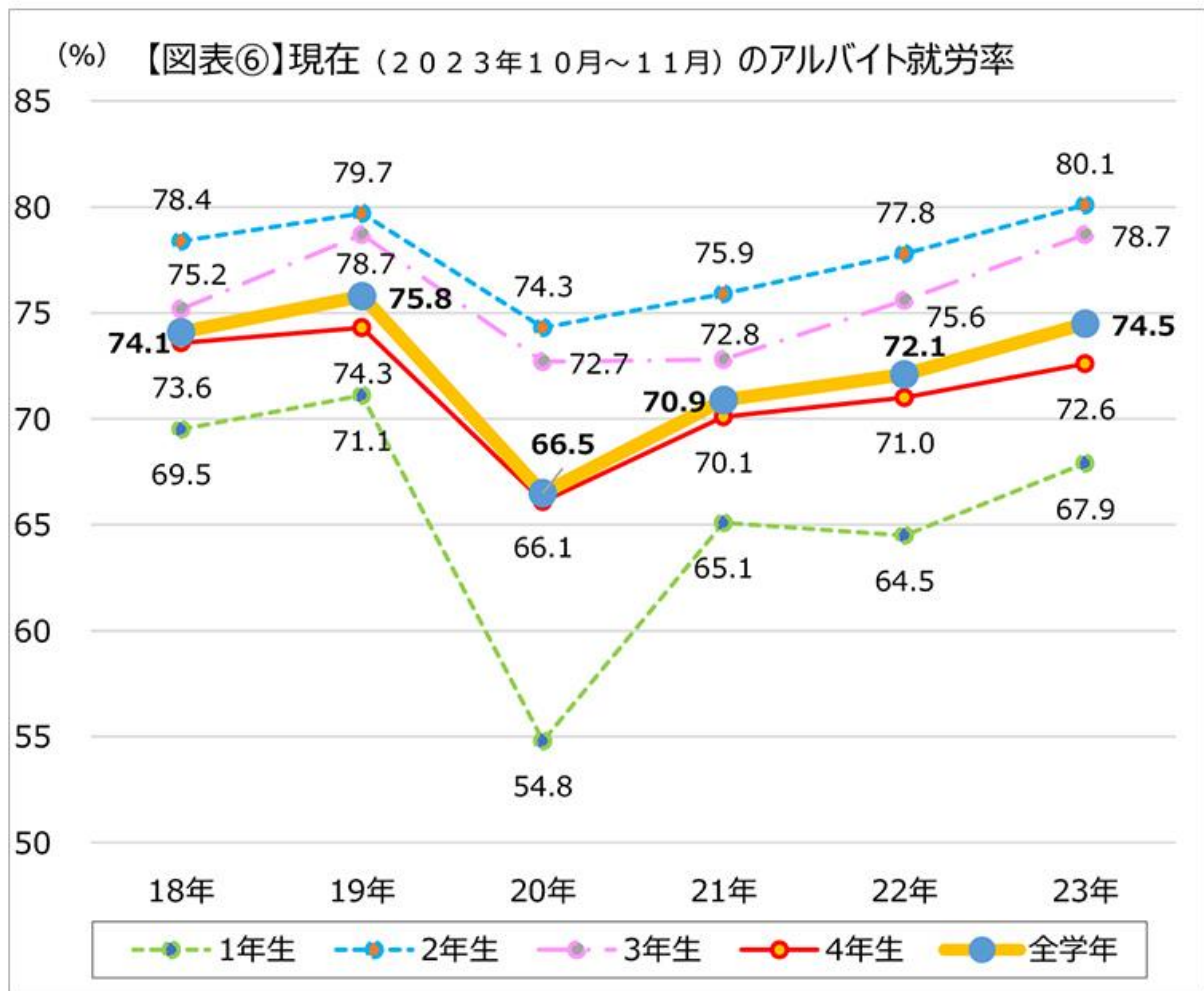
# 学生の「文脈・環境」

- 時間の使い方・生活
- メディア環境

## ●授業は大幅減の一方で、予復習・課題は微増、自主学习は変化なし

◆次の項目は1週間（月曜日～日曜日）で何時間くらいになりますか。





# 総務省調査

- 10～20代の半数弱は平日テレビ未視聴
  - 2013年でもまだ8割は見ていたのに……
- ネットの内訳：動画、SNS、ゲーム
  - ブログ・ウェブですら20～30%
  - SNSの内訳：Instagram, Twitter, TikTok

# 総務省調査

- 電子書籍 < 紙の本（差は年々減少）
- 使用ツールはスマホが9割 / PCは30%未満
- 新聞・テレビが信頼できるとは思っている
  - 調べ物等に使うのはインターネット – 強

# 読書の状況

- ベネッセ調査：約半数の学生は週0時間
- 生協調査：47.4%は週0分
- 総務省：1日の紙読書接触率は10%未満
  - 基本的にはあまり読んでいない

# 日本財団18歳意識調査

- 回答者の60%は読書が好き（小説等）
- 好き／嫌いで読書冊数は断絶
- 情報・学びの場面では？
  - SNS 43.2%、YouTube 36.9%、本 33.6%

# 高校生の学習情報源

情報源	%
インターネット	91.3
学校図書館	30.0
公共図書館	21.1
書店	15.3
決まった情報源はない	5.1
国立国会図書館	0.5
大学図書館	0.0



# 学生の「文脈・環境」

- 時間の使い方・生活

- 大学／アルバイト／動画＋SNSが競合

- メディア環境

- インターネット一強。Not web, but app.

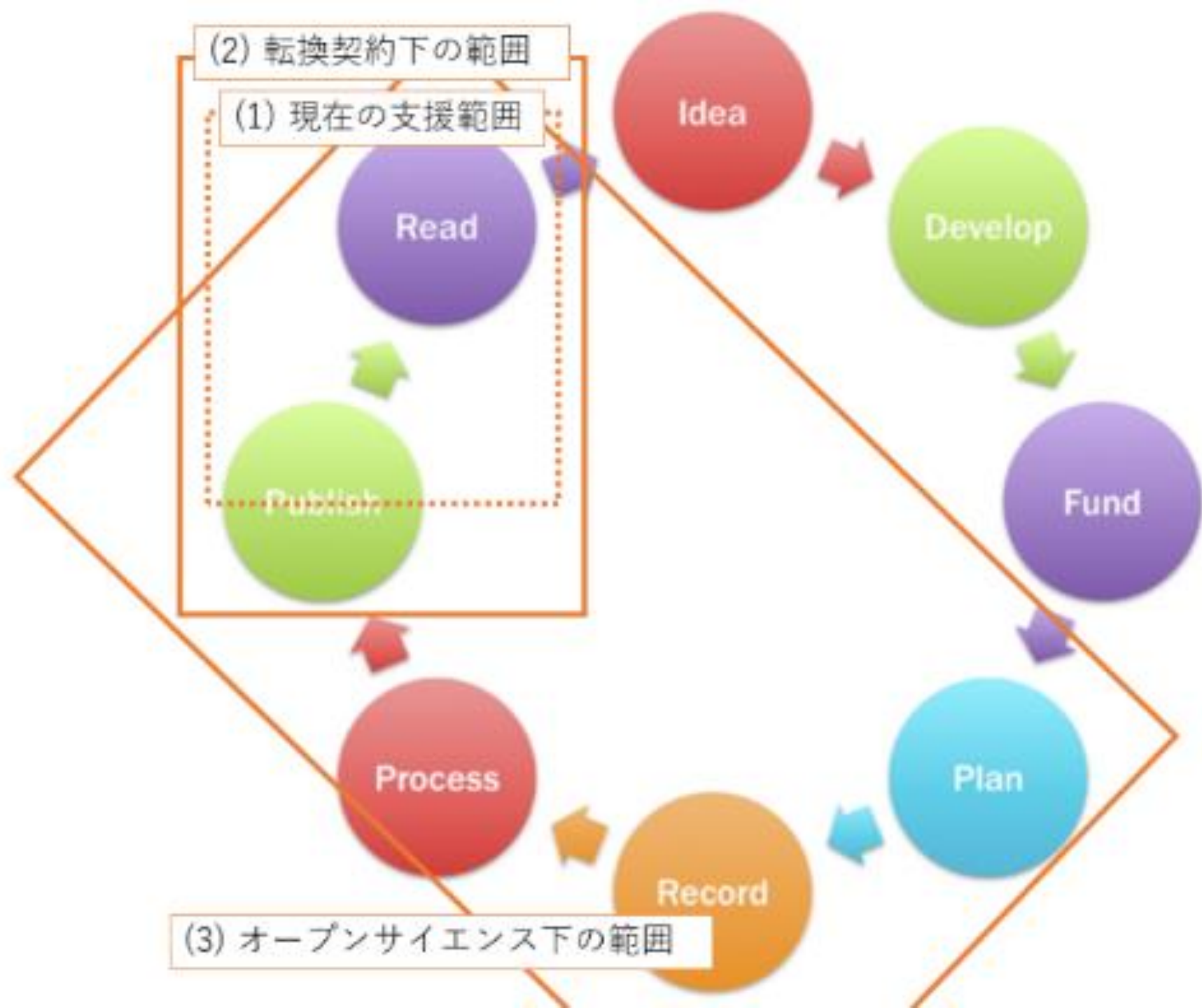
# 学生の情報行動と図書館

- 図書館・大学 vs SNS・動画の時間競合
- ネットのみでいいとは思っていない
  - 時間が限られている中で使えるものを使う
- 「納得感」「実感」＝時間消費の必然性
  - 「タイムパフォーマンス」を出せているか？

# 研究者の情報行動

# 研究者の「ゴール」

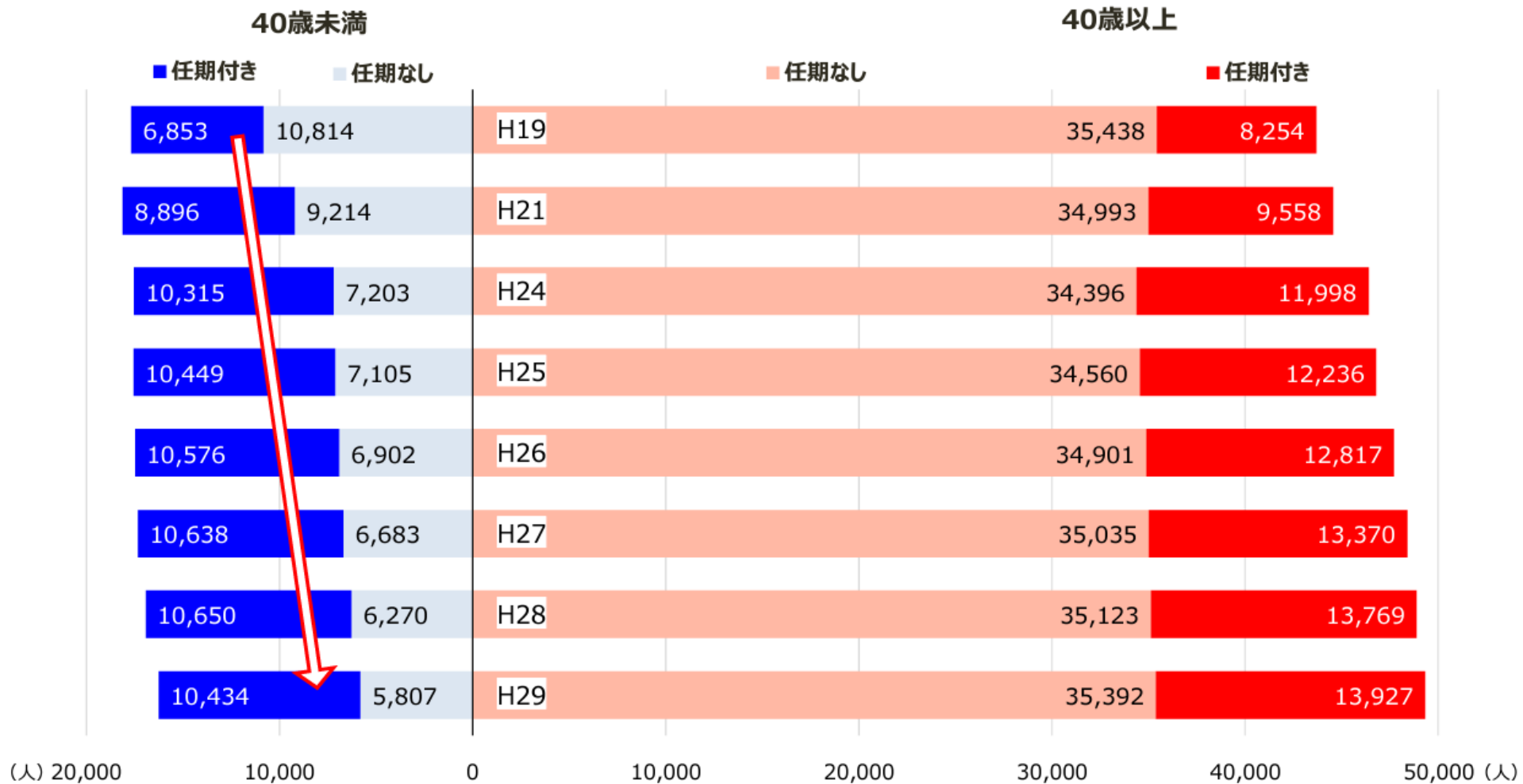
- 遠隔：論文・著書執筆、研究計画書作成、査読、論文指導、教材作成……
- 超遠隔：テニユア獲得、昇進、キャリア、名声＝評価の獲得
- 超遠隔につながる遠隔は「論文・著書」のみ



# 研究者の「文脈・環境」

- 雇用の不安定化・若手教員比率・基盤的資金減少
- 研究時間の制約
- 情報の入手環境・動向・意識
- 情報の発信動向・意識

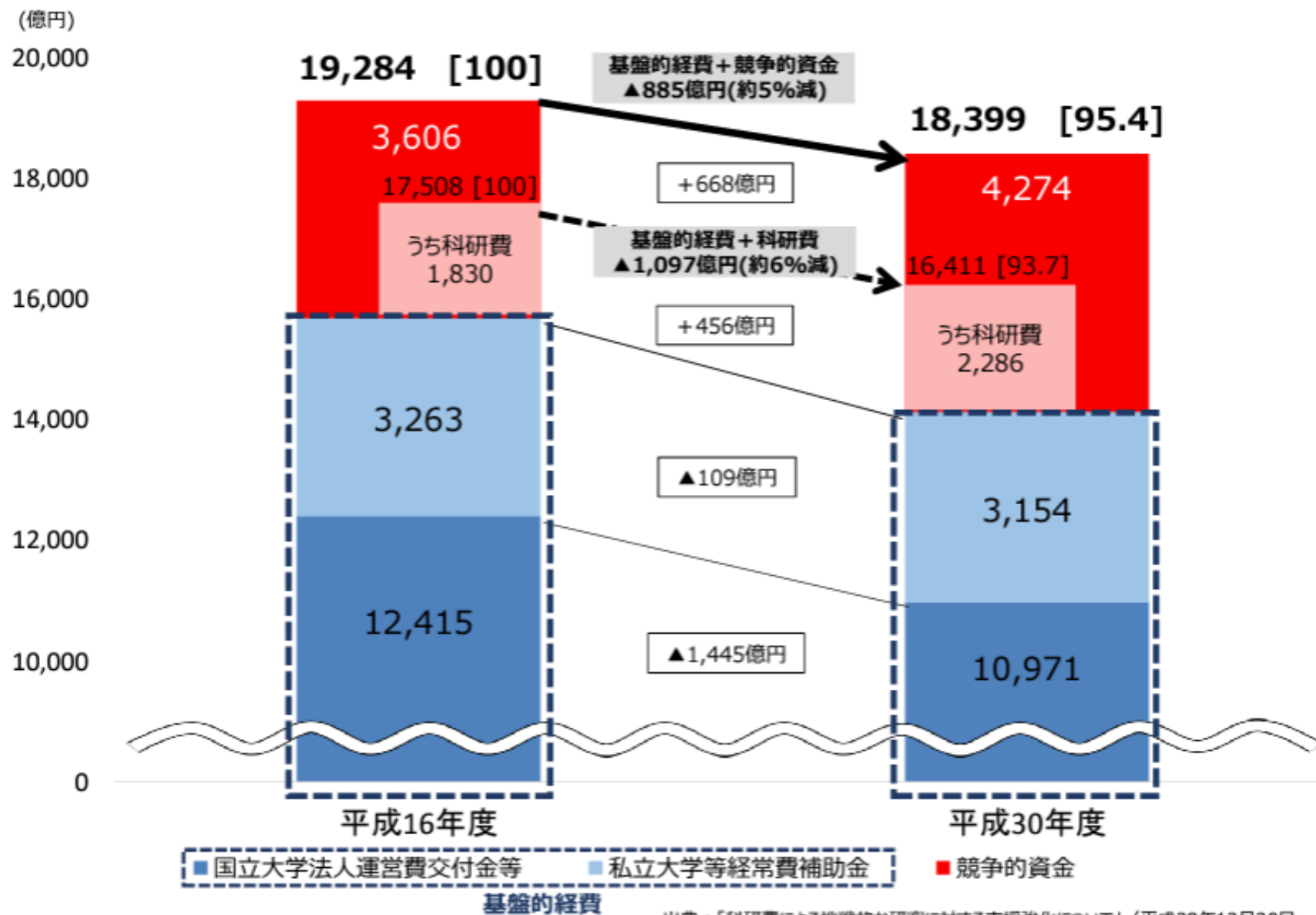
# 国立大学教員の任期状況の推移



	任期付き	40歳未満	40歳未満のうち任期なし
H19	24.6%	28.8%	<b>61.2%</b>
H29	37.2%	24.8%	<b>35.8%</b>

出典：文部科学省作成

# 基盤的経費と競争的資金の推移

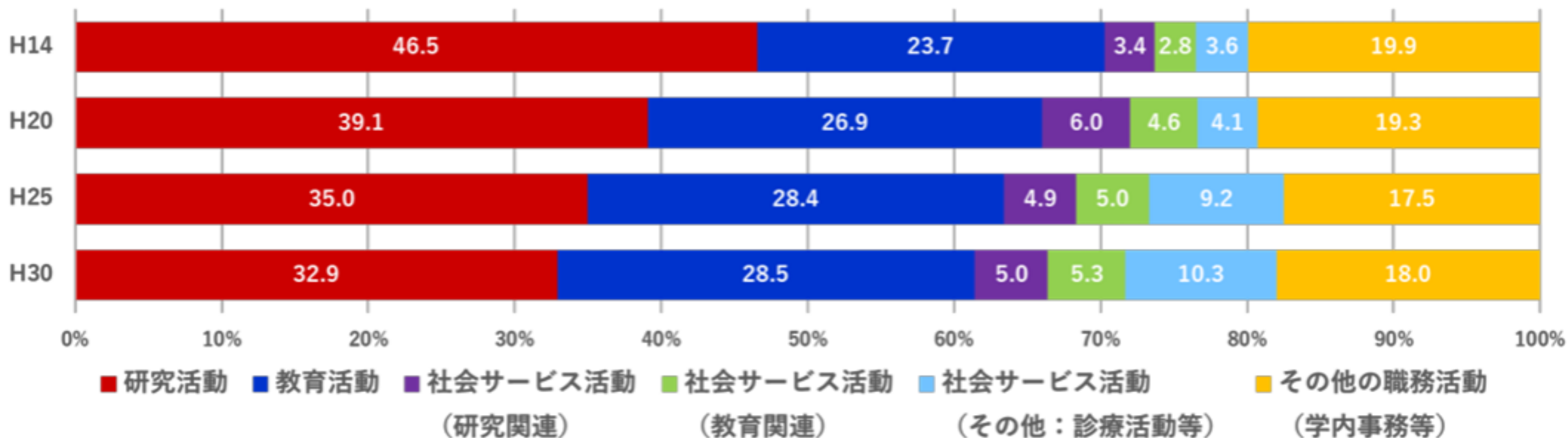


※[]内の数値は、平成16年度の合計額を100とした時の割合。

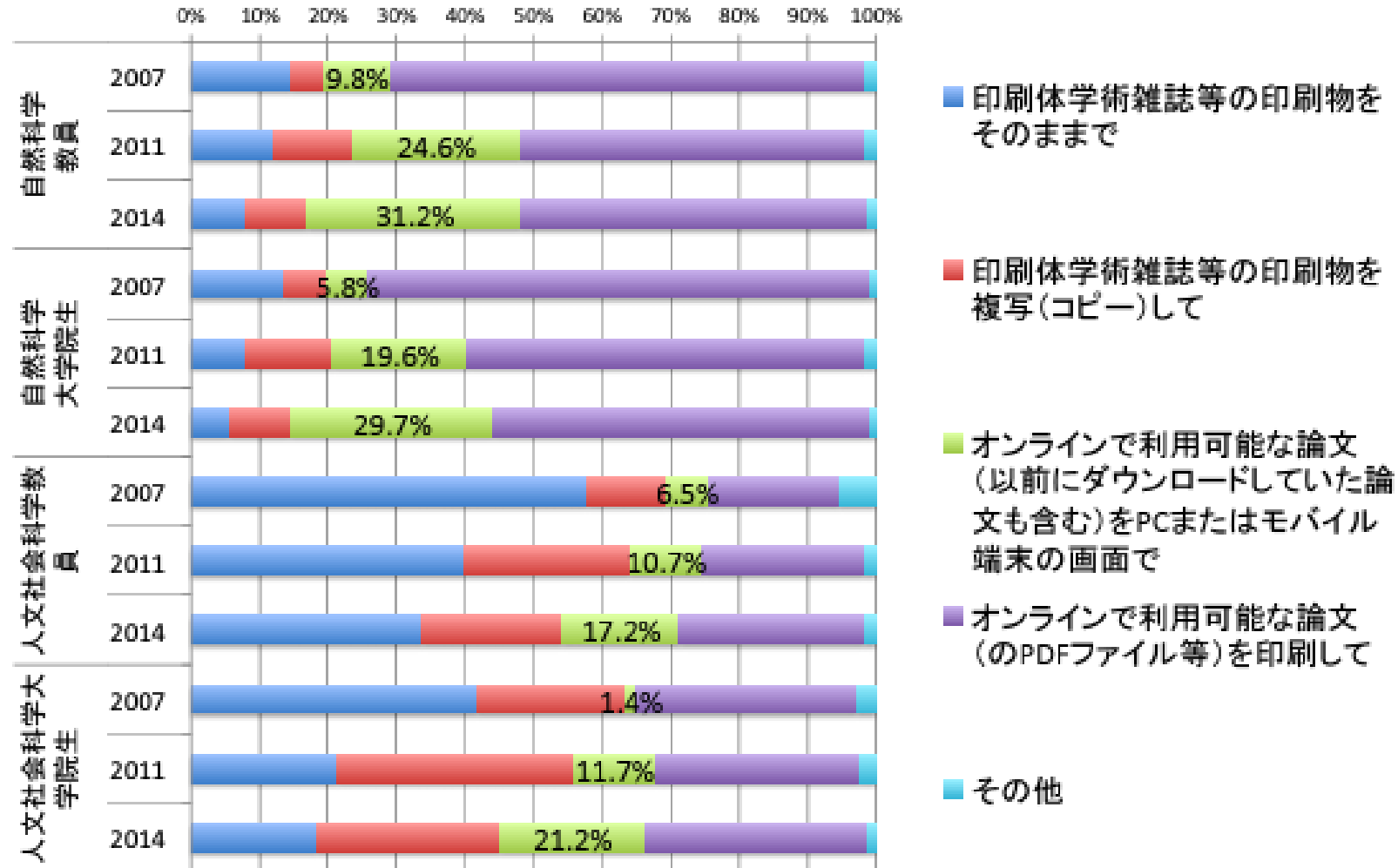
出典: 「科研費による挑戦的な研究に対する支援強化について」(平成28年12月20日 研究費部会)等を基に、文部科学省作成。



図表3 大学等教員の職務活動時間割合の推移



# 最後に読んだ論文の読み方 (2007 - 2014)



## 最後に読んだ論文の読み方 (Q9; ラストリーディングの種別毎)

- 印刷体学術雑誌等の印刷物をそのまま
- 印刷体学術雑誌等の印刷物を複写(コピー)して
- オンラインで利用可能な論文(以前にダウンロードしていた論文も含む)をPCまたはモバイル端末の画面で
- オンラインで利用可能な論文(のPDFファイル等)を印刷して
- その他

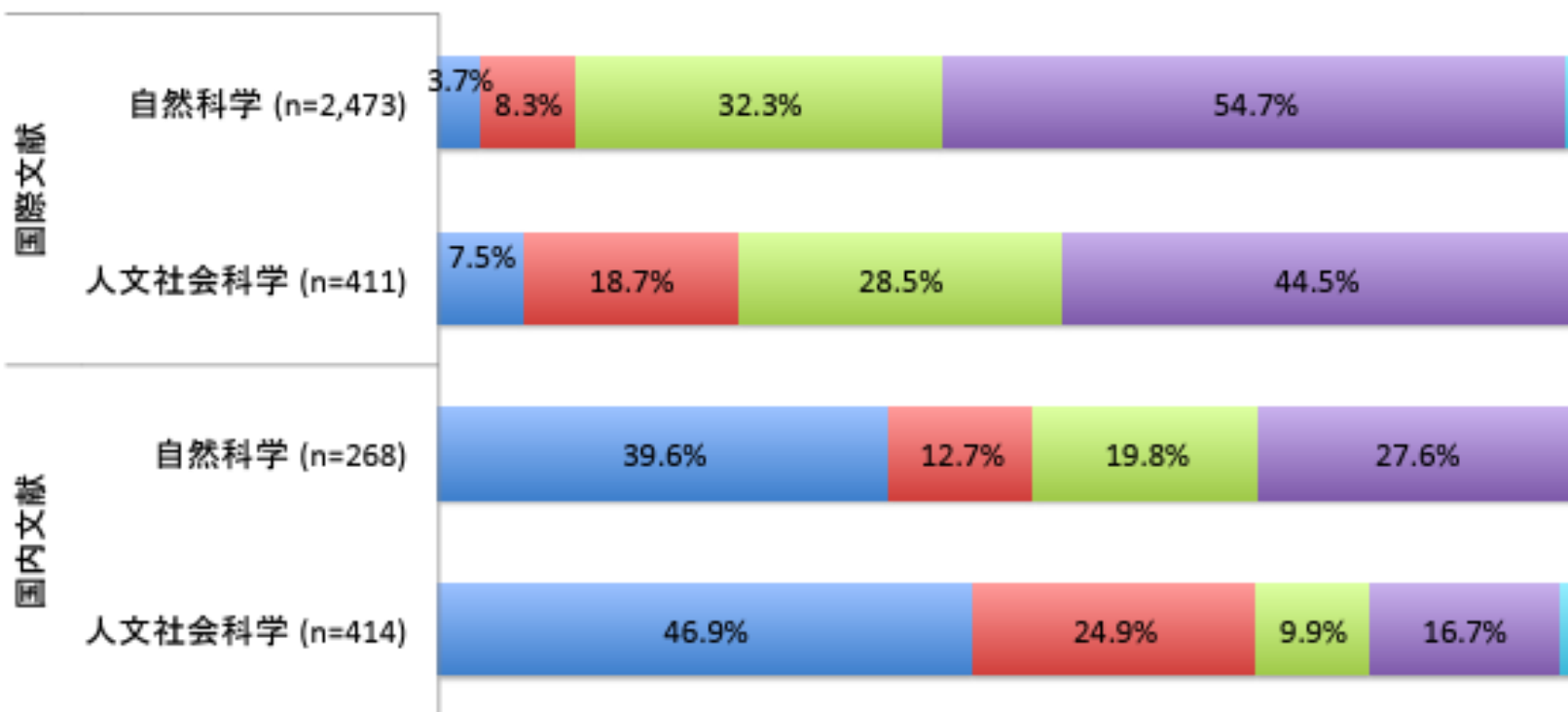


表 5 情報の検索・管理手段と情報の入手方法に関する回答の分布

該当項目を選択(複数選択可能)した回答者の割合(%)		合計	学問分野					年齢				
			学際分野	自然科学	健康科学	生命科学	人文・社会科学	20代	30代	40代	50代	60代以上
n =		1438	24	511	249	257	397	71	397	432	374	164
検索・管理手段	汎用のインターネット検索(Google, Yahoo等)を使う	91.5	91.7	<b>96.7</b>	<u>81.9</u>	<b>92.6</b>	<b>90.2</b>	100.0	92.4	91.0	89.6	91.5
	論文誌の掲載ページで概要や本文を読んだり、論文ファイルをダウンロードする	80.1	91.7	<b>81.0</b>	<u>70.3</u>	77.4	<b>86.1</b>	77.5	79.3	79.6	81.3	81.7
	学会やシンポジウムに参加する	79.3	87.5	<b>82.6</b>	<u>69.9</u>	80.5	<b>79.8</b>	88.7	81.6	80.1	77.0	73.2
	政府系データベース(CiNii, PubMed等)を使う	77.5	83.3	<u>62.6</u>	<b>88.0</b>	<b>85.6</b>	<b>84.4</b>	63.4	77.1	79.6	79.1	75.0
	研究者業績データベース(KAKEN, researchmap, ORCID, Google Scholar等)を使う	76.0	83.3	<u>74.4</u>	<u>65.9</u>	77.0	<b>83.4</b>	84.5	80.4	75.0	73.8	69.5
	既知の論文や書籍の参考文献欄から探す	72.1	<b>87.5</b>	<b>74.8</b>	<u>57.8</u>	64.6	<b>81.6</b>	74.6	72.3	71.8	71.9	72.0
	同僚や共同研究者からの紹介	53.1	50.0	<b>56.0</b>	<u>40.2</u>	<b>58.0</b>	<b>54.4</b>	63.4	59.4	52.1	51.9	38.4
	商用論文データベース(Scopus, Web of Science等)を使う	47.7	33.3	<b>58.7</b>	<u>33.3</u>	<b>56.0</b>	<u>38.0</u>	56.3	50.1	49.1	46.3	37.8
	研究者向けソーシャルメディア(ResearchGate, Academia等)を使う	44.9	41.7	<b>48.3</b>	<u>32.9</u>	<b>52.9</b>	42.8	54.9	44.3	45.1	46.3	37.8
	専門誌で報道された記事を開覧する	40.9	37.5	39.3	<u>34.1</u>	40.9	<b>47.4</b>	47.9	39.0	37.0	45.5	42.1
	各研究機関が公開している機関リポジトリを使う	40.0	45.8	<u>30.3</u>	<u>27.7</u>	<u>27.6</u>	<b>67.8</b>	32.4	38.3	42.1	41.2	39.0
	図書館や資料館、書店等の実店舗で探す	33.6	37.5	<u>25.8</u>	<u>22.1</u>	<u>21.0</u>	<b>58.7</b>	26.8	35.5	31.9	35.6	31.7
	文献管理ソフト(Mendeley, EndNote等)を使う	33.0	25.0	35.4	39.0	39.3	22.4	52.1	40.8	31.3	28.1	21.3
	研究指導者からの紹介	28.4	25.0	27.4	27.7	31.1	28.5	63.4	40.1	24.3	20.3	14.0
	一般誌で報道された記事を開覧する	22.2	20.8	18.6	<u>14.5</u>	<b>26.8</b>	<b>28.7</b>	15.5	21.2	21.3	25.9	21.3
	一般のソーシャルメディア(Twitter, Facebook等)を使う	21.9	<b>41.7</b>	20.5	<u>16.5</u>	21.8	<b>25.9</b>	35.2	28.7	20.1	17.1	15.2
研究機関の広報記事を読む	20.7	16.7	21.5	14.5	23.3	21.9	22.5	20.4	22.0	20.9	16.5	
ChatAI(ChatGPT, Bing AI Chat等の対話型AI)を使う	11.3	12.5	13.5	10.8	10.9	8.8	18.3	14.1	9.3	9.4	11.0	
テレビ等に放送された記事を開覧する	10.5	12.5	9.4	8.0	12.5	12.1	7.0	9.1	11.3	12.3	9.1	
商用の研究分析ツール(SciVal, InCites, Dimensions等)を使う	2.1	0.0	2.5	1.2	<b>4.7</b>	<b>0.5</b>	1.4	2.3	2.1	2.4	1.2	
n =		1439	24	512	249	257	397	71	397	433	374	164
入手方法	Webダウンロード等で無料入手出来るもの(無償)	98.7	100.0	98.8	98.0	99.6	98.5	100.0	98.0	99.1	98.9	98.8
	所属組織で一括購読契約しているもの(有償だが直接の支払いは発生しない)	83.8	75.0	<b>88.7</b>	<b>84.3</b>	<b>91.1</b>	<u>73.0</u>	90.1	89.9	82.0	82.1	75.0
	図書館・資料館等(所属組織以外も含む)で借りる(交通費/コピー代程度は支払う)	67.6	66.7	<u>59.0</u>	<u>62.7</u>	<u>61.9</u>	<b>85.6</b>	60.6	62.7	69.7	71.4	68.3
	定期購読している雑誌や会員登録している学会の論文誌から(毎年/毎月の支払いがある)	56.2	<u>45.8</u>	<u>52.5</u>	<u>44.6</u>	<u>47.5</u>	<b>74.3</b>	52.1	52.6	54.7	60.7	59.8
	都度支払いして入手する(必要なときだけ支払う)	31.1	25.0	<b>28.9</b>	28.5	<b>19.5</b>	<b>43.3</b>	23.9	31.0	33.7	32.1	25.0
	論文の著者から直接入手する(連絡して送ってもらう等。ほぼ無償)	26.2	16.7	25.8	<u>18.5</u>	<b>30.7</b>	<b>29.2</b>	32.4	27.2	24.0	28.1	22.6

※[太字と下線を付した数字]: 列の比率を比較(z検定)した結果、有意差(有意水準0.05、Bonferroni法でp値を補正)があるグループ

[斜体の数字]: 年齢による傾向が見られる、または特徴的なグループ

概要図表 2 オープンアクセスにするための費用(APC)の支払い経験

		①ある	②ない	③分からない			①ある	②ない	③分からない
全回答者 (1,176)		53%	44%	2%					
大学 種 別	国立大学等 (810)	57%	41%	2%	年 齢	39歳以下 (174)	50%	48%	2%
	公立大学 (72)	47%	50%	3%		40～49歳 (515)	53%	45%	2%
	私立大学 (294)	43%	53%	4%		50～59歳 (350)	55%	43%	2%
						60歳以上 (137)	53%	39%	7%
大学 グ ル ー プ	第1グループ (203)	66%	30%	4%	職 位	助教 (156)	46%	51%	3%
	第2グループ (284)	56%	43%	2%		准教授 (497)	51%	48%	2%
	第3グループ (312)	53%	46%	1%		教授 (499)	59%	38%	3%
	第4グループ (377)	45%	52%	3%	外 部 資 金 の 額	100万円未満 (475)	30%	65%	5%
部 局 分 野	理学 (196)	54%	46%	1%		100～500万円 未満 (285)	48%	50%	2%
	工学 (423)	48%	47%	4%		500～1000万円 未満 (235)	58%	40%	2%
	農学 (175)	55%	44%	1%		1000万円以上 (181)	77%	21%	1%
	保健 (382)	57%	41%	2%					

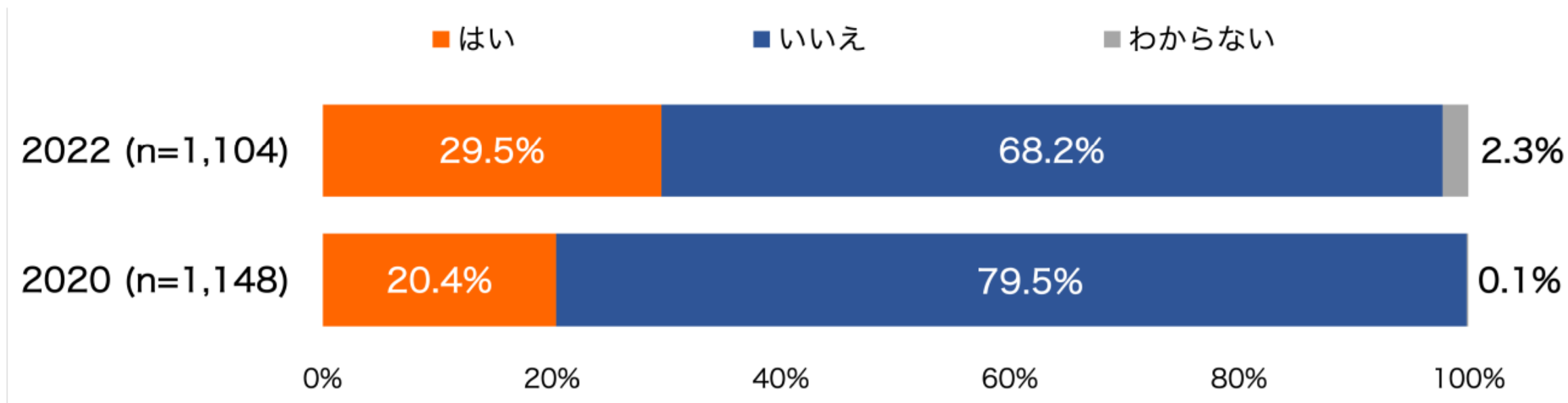


図 9 プレプリントの公開経験の経年変化 (2020/22 年)

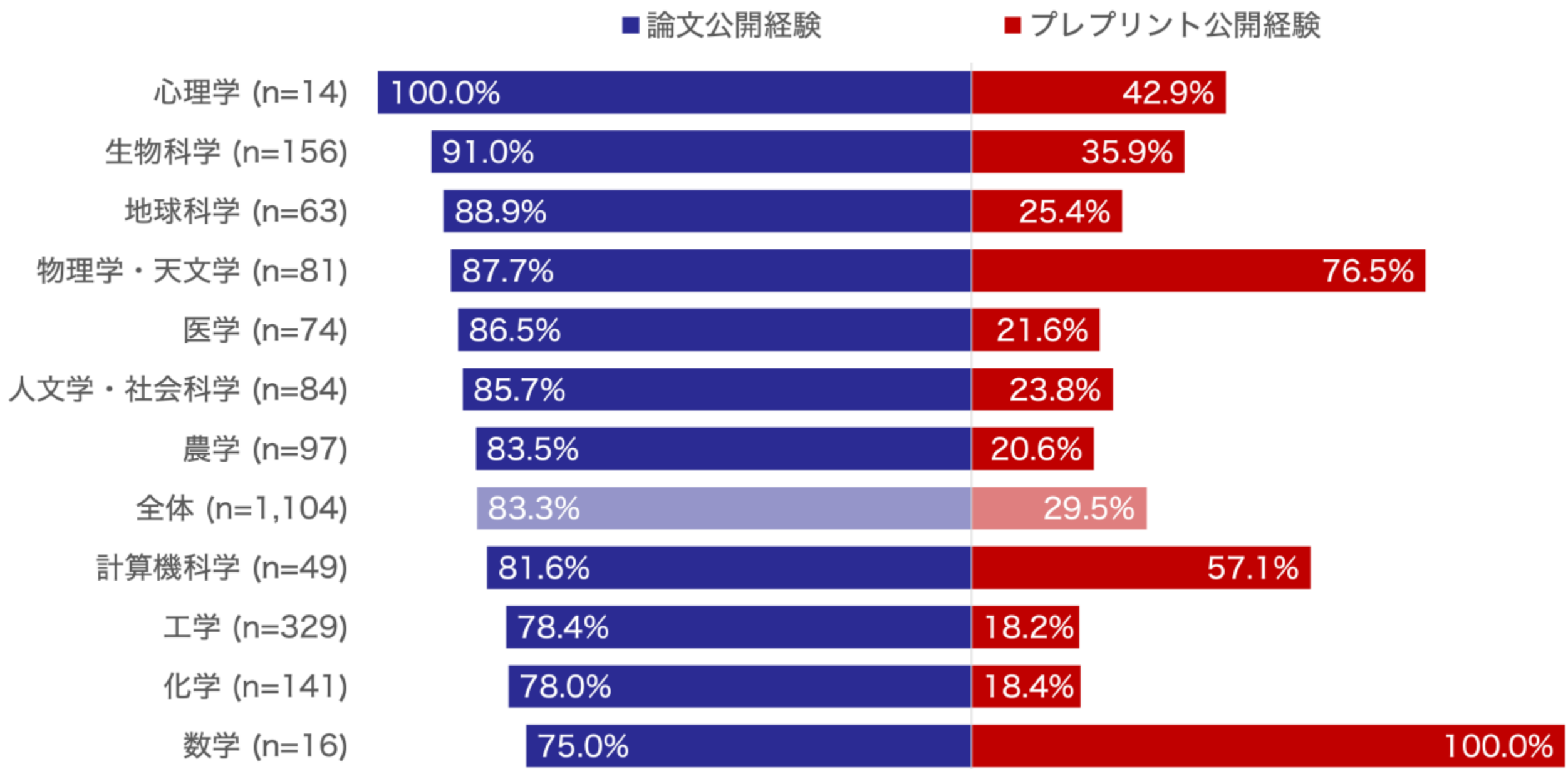


図 10 分野別論文とプレプリントの公開経験

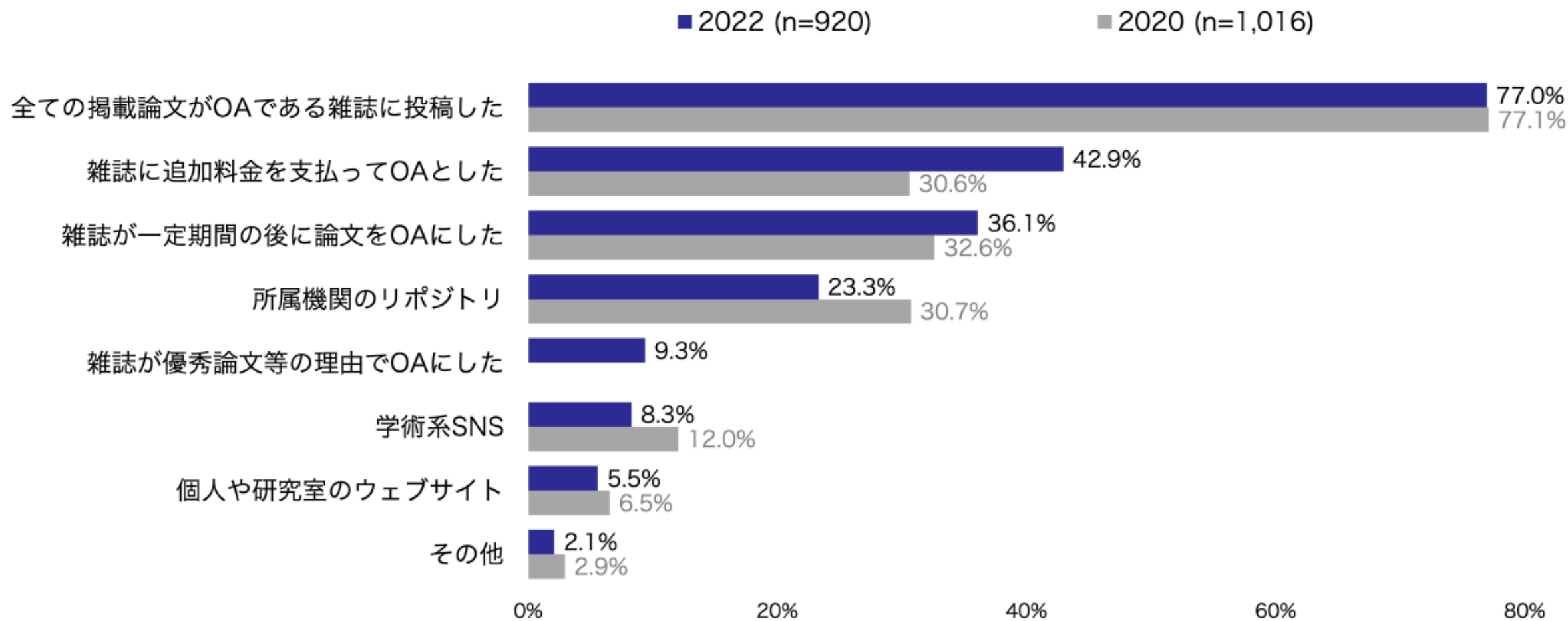


図 14 論文の公開方法（2020/22年，複数回答）



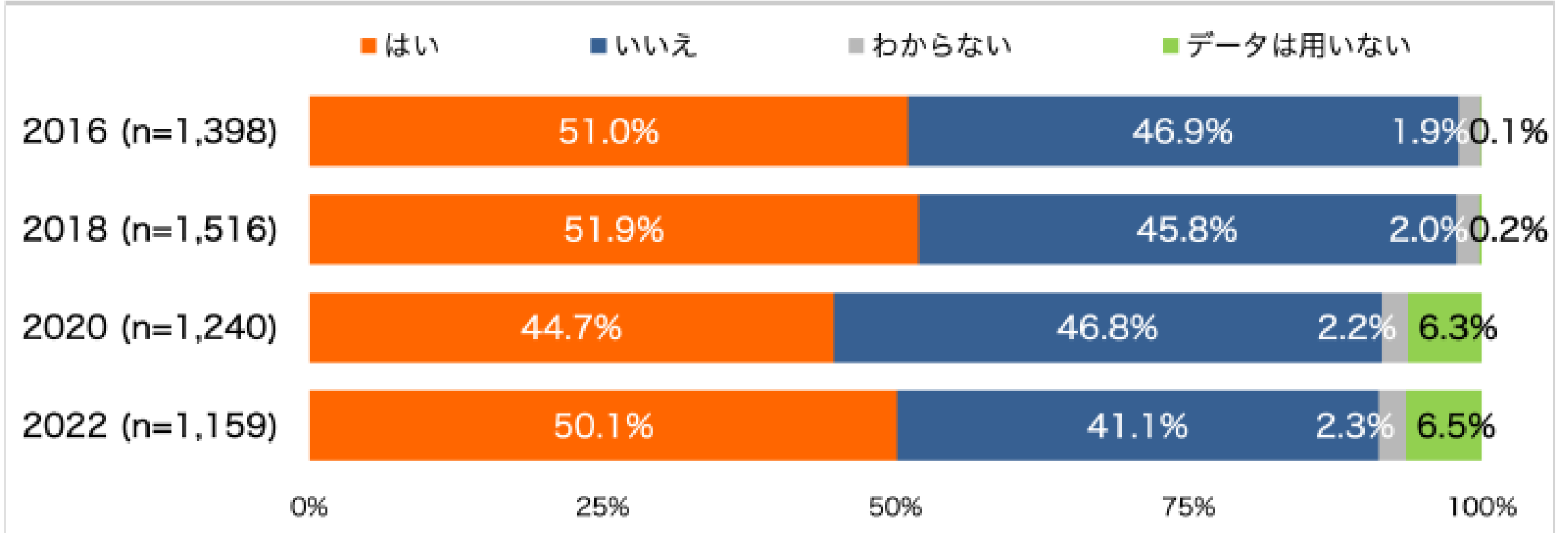


図 34 データ公開経験の経年変化 (2016/18/20/22 年)

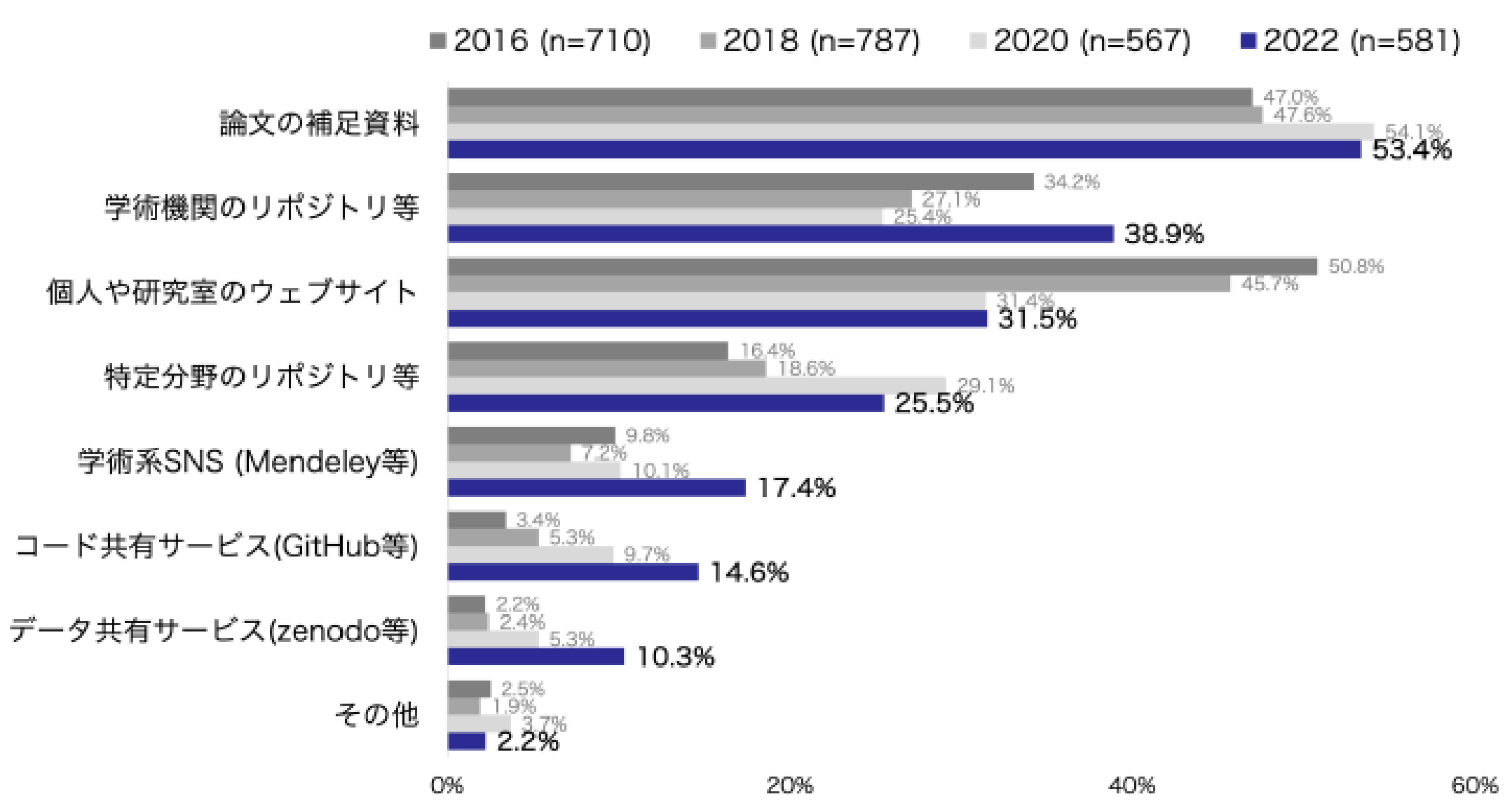
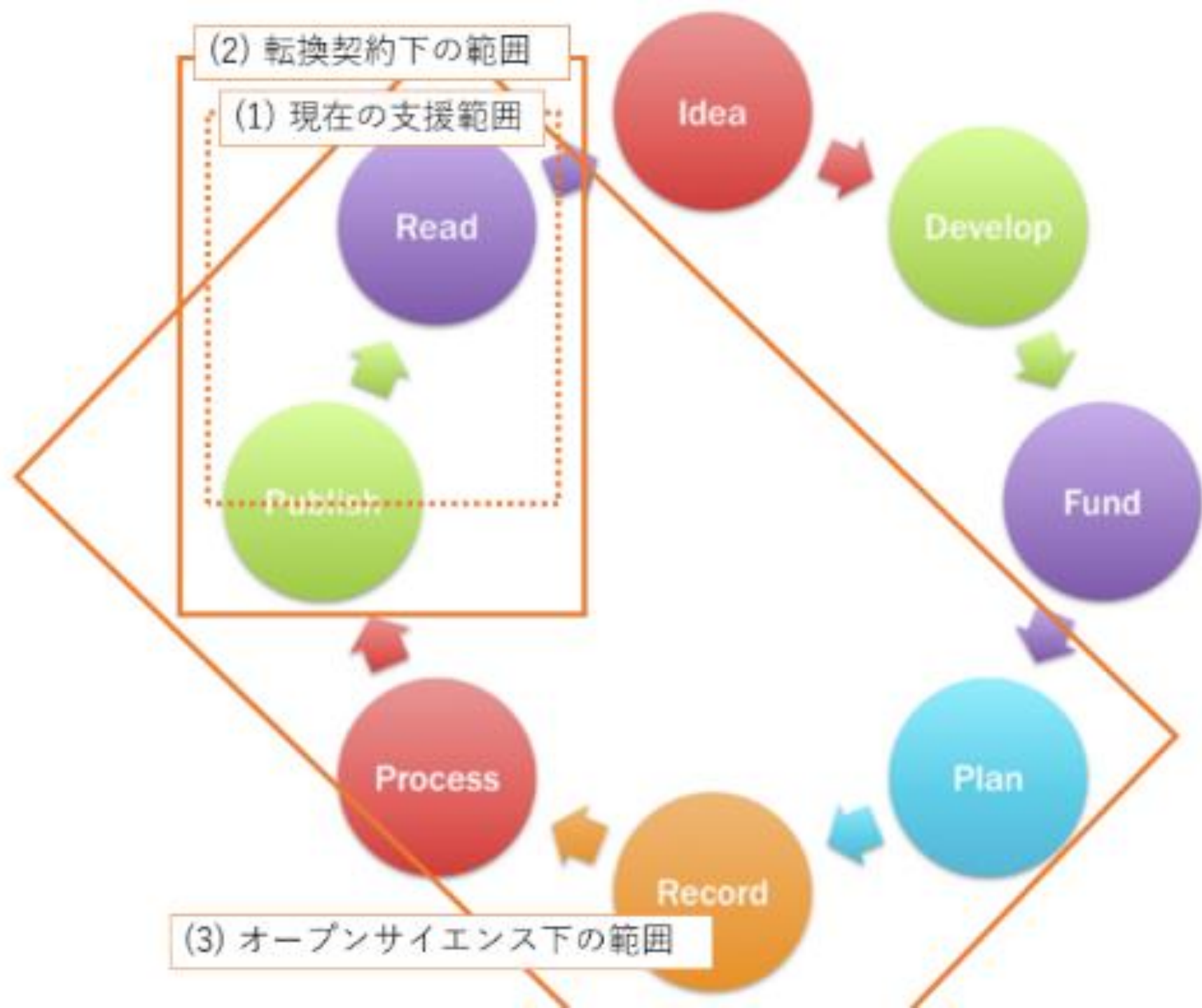


図 38 データの公開方法 (2016/18/20/22 年：複数回答)

# 研究者の情報行動と図書館

- 研究者はゴールがはっきりしている
- サービス対象となる「情報行動」の拡大



# 質疑応答

[min2fly@slis.doshisha.ac.jp](mailto:min2fly@slis.doshisha.ac.jp)

